

事務事業名	雲南ブランド化プロジェクト・都市間交流促進事業 (雲南応援団) (知と智の地域づくり事業)	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
政策名	総合計画体系 (VI) 推進計画・地域経営によるまちづくりの推進	所属G	雲南ブランド推進G	課長名	佐藤 満
施策名	(39) 計画的なまちづくり	担当者名	加藤雄二	電話番号 (内線)	0854-40-1011 3512
基本事業名	(117) 横断的プロジェクトの進行管理	予算科目	会計 款 項 目 011 110 015 315 018	中事業	雲南ブランド化プロジェクト

1 現状把握の部

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③ 開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (19年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	建築学を専攻する早稲田大学古谷研究室をはじめとした学生たち 招き、地域住民と遊休施設等の活用方策等を議論するもの。23年 度は、雲南市地域活性化施設の建設に向けたWSや観光施設に 向けた提言、さくらまつり体感フェアに向けた子どもたちとのWS等 を実施した。	19年度に全国都市再生プロジェクト推進調査によっ て、雲南市内全域の公有遊休施設の大規模調査を 早稲田大学との共同により実施した。これをきっかけ に、早稲田大学が雲南応援団として継続的に雲南市 のまちづくりに寄与することとなった。

(2) トータルコスト

		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	全体 計画
① 事業費の内訳(概要)	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円	793	1,001	1,393	1,200		
	地方債	千円						
	その他	千円	793	1,001	1,393	1,200	2,400	
	事業費計(A)	千円	1,586	2,002	2,786	2,400	2,400	
② 延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)	正規職員従事人数	人	1	1	2	2	2	
	延べ業務時間	時間	700	700	642	600	600	
	人件費計(B)	千円	2,670	2,722	2,531	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,256	4,724	5,317	2,400	2,400	

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	指標名	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) ・県事業への申請、委託業務契約等 ・事務手続き(特に、大学側との連絡調整) ・地元調整 24年度計画(24年度に計画している主な活動) ・県事業への申請、委託業務契約等 ・事務手続き(特に、大学側との連絡調整) ・地元調整	⑤ 活動指標							
		ア 計画策定	回数	1	1	1	1	1	
		イ ワークショップ	〃	1	2	4	3	3	
		ウ							
		エ							
		オ							

目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	指標名	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	① 市民 ② 雲南市を訪れる人	⑥ 対象指標							
	ア 人口(推計人口)	人	42,402	41,917	41,159	41,032	40,650		
	イ								
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標							
	① 雲南の幸に気づいてもらう。 ② 雲南市への憧れ・誇りを抱いてもらう。	ア 人口(推計人口)	人	42,764	42,336	41,899	41,032	40,650	
	イ 年間観光入込客数	千人	884	885	1,000	1,000	1,000		
	ウ								
④ 結果(どんな上位目的に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標								
	交流人口を拡大する。	ア 人口(推計人口)	人	42,402	41,917	41,159	41,032	40,650	
	イ 年間観光入込客数	千人	884	885	1,000	1,000	1,000		

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は どう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比 べてどう変わったのか?	② この事務事業に関する これまでの改革改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して関係者 (市民、議会、事業対象者、利害関係者等)から どんな意見や要望が寄せられているか?
廃屋を改修した農家レストラン、廃校を改修し た人間交流センターなど、学生との関わりによ って再生された交流施設が増えた。また、地 域住民の施設に対する思い入れもさらに深化 したものとなっている。さらに、取組みの成果 として広島方面や県内の大学生との関わりも増 えたことがあげられる。	財政的には県単補助金を活用し、市 からの持ち出し額を抑えている。	学生との関わりが生まれた地域住民からは、継続 的な学生との交流を求められている。また、中高生 と大学生との交流などに対しては、キャリア教育の 視点で学校関係者などから評価をいただしてい る。

事務事業名	雲南ブランド化プロジェクト・都市間交流 促進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
-------	-----------------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 遊休施設は、上手にリニューアルすることにより、拠点施設として機能・再生する大切な地域資源である。さらには、食や自然の魅力を加えて交流に活用することで、交流人口拡大などによる地域活性化に寄与し政策体系に合致する。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 地域住民が主体となって、地域活動の拠点や交流人口に寄与する施設にするものであり、公共性が高い。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 事業を通じて雲南との関わりを持つ人を増やすことが、将来的な交流人口の拡大につながることから対象の設定は適切である。また、交流人口を継続的に拡大していくためには、市民自らに雲南の幸に気づいてもらうことも大切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 雲南市のまちづくりに関わる学生の輪が年々増えているところでもあり、継続的な取組みにより、成果の向上余地は見込まれる。そのために、都市間交流の対象者のネットワークをさらに強固なものとしていくことが必要である
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 学生のまちづくりへの参加は地域住民に対しても良い刺激を与えている。廃止・休止した場合には、その機会を失うとともに、雲南応援団のネットワークが途切れ、交流人口の減少に繋がる。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はありますか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段, 事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 他の交流事業などと有機的に連携することは考えられる。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 学生の滞在経費など、地域に受け入れの協力を求めることでさらに削減する余地はある。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か? 成果を下げずに正職員以外や委託でできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 大学と地元、大学と大学など、極力市を経由せずに連携できる体制へ移行していくことで、事務の効率化を図る。将来的には、こうした取組みのフォローを担う組織づくりなどが必要であると考えている。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 地域課題解決を図り、市全体のまちづくりをすすめるものであり、個別の受益者への支援ではなく、適正である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	早稲田大学との連携については、日程調整等が上手くいかず、市内でのWSなど準備不足の面も多々あった。計画的に取組みをすすめる必要である。 課題であった、島根大学との連携が図られてきた。今後はさらに強化していきたい。																						
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×		低下		×	×
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上	●																					
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							
交流事業に関わる安定的な財源の確保が必要であり、既に組織されている雲南応援団に対してふるさと納税の呼びかけ等を実施していく。																							